

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「ふるさと納税新たな返礼品の企画提案 ～ 輪島塗 ～」	
実施主体	輪島市	
活動形態	活動場所	輪島市
	活動人数	金沢大学1名、金沢星稜大学1名、金沢学院大学1名 計3名
	期間	令和元年7月～9月（延べ11日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>輪島市のふるさと納税の寄付額アップを図るため、輪島塗を活用したふるさと納税の新たな返礼品について、輪島塗関連事業者へ提案を行う。</p> <p><活動概要></p> <p>8月に石川県輪島漆芸美術館や輪島塗しおやす漆器工房を見学したほか、輪島塗太郎にて蒔絵体験を行うなど輪島塗について学んだ。</p> <p>後日、輪島市役所職員などから、輪島塗の軽さを活かした商品がよいのではないかなどのアドバイスを受けながら、学生たちがアイデア出しを行い、水筒や時計、アルバム等を提案することに決定。</p> <p>9月に輪島塗会館において、輪島漆器商工業協同組合の日南理事長等の輪島塗関連事業者に、若者の視点を取り入れた新たな輪島塗製品について提案を行った。</p> <p><活動成果></p> <p>学生からの提案では、輪島塗の軽さや高級感などの特性を活かしつつ、幅広い世代が気軽に手に取れることを意識した製品6点を紹介した。</p> <p>関係者からは「木地をつくる点で難しいと思う部分もあったが、面白い提案もあり、今後のヒントにさせてもらいたい」とのコメントをいただき、当初の目標を一定程度達成できた。</p>	

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「珠洲おしごとライター珠洲ではたらく魅力を 20 代に届けよう！」	
実施主体	珠洲市	
活動形態	活動場所	珠洲市、金沢市
	活動人数	金沢星稜大学 1 名、金沢学院大学 1 名、富山大学 1 名 計 3 名
	期間	令和元年 7 月～令和 2 年 2 月（延べ 8 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>珠洲市内の企業における就職者数の増加に向けて、珠洲ではたらくことを魅力に感じる 20 代を増やすため、学生がライターとして珠洲市の企業取材し、企業紹介記事を Web 上で発信するとともに、珠洲市で働く人と学生をつなぐ交流会の企画・運営を行い、珠洲市で働く魅力を伝える。</p> <p><活動概要></p> <p>8 月にライティングの心構え等をプロから学ぶ講座を受講し、珠洲市内の企業 3 社（みさきデイサービスセンター、ホテル海楽荘、ザアグリアンテーブル合同会社（木ノ浦ビレッジ））での取材と記事作成を開始した。</p> <p>9 月にも再び珠洲市を訪れ、新たに企業 3 社（日本発酵化成（株）トラベル愛ランド（株）能登建設（株））でのインタビューを実施。慣れない経験に苦労しながら、各学生 2 本ずつ計 6 本の記事を作成した。</p> <p>翌年 2 月には、金沢で珠洲の企業人と学生等との交流会を開催。</p> <p><活動成果></p> <p>12 月～1 月に企業紹介記事 6 本を珠洲市運営の Web メディア「すつとずっと」に掲載。</p> <p>2 月に金沢市内で開いた交流会「つながる語り場 in 金沢「珠洲にいらしね！」」では、珠洲の企業人と学生等との対談等を通じて、珠洲で暮らし、はたらく魅力を来場者 16 名に紹介し、就職先を選ぶ選択肢の一つとして珠洲を考えるきっかけ作りを提供することができた。</p>	

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「子育て世代応援 映画イベント企画 ～ Pick up MAMA voice♡ ～」	
実施主体	穴水町	
活動形態	活動場所	穴水町
	活動人数	金沢大学1名、金沢星稜大学1名、公立小松大学1名 計3名
	期間	令和元年7月～11月（延べ9日）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>穴水町に子育て世代を定着させるため、子育て世代が親子で楽しめる映画鑑賞イベントの企画・運営に取り組んだ。</p> <p><活動概要></p> <p>8月～9月にかけて、穴水町内の子育て世代に意見を聞き、上映時間やおむつを替える場所などのニーズを聞きながら、上映会のスケジュールや会場の選定を行った。</p> <p>また、ポスターの掲示場所を工夫したり、子育て世代が喜ぶ美容グッズや子供向けのお菓子を予約特典とし、早期周知に取り組むなど、より多くの子育て世代に来場してもらえるよう工夫を行った。</p> <p><活動成果></p> <p>10月に、穴水町保健センターやさわやか交流館プルートにおいて、子育てと食をテーマにした映画「いただきます みそをつくるこどもたち」の上映会を行い、50名の参加があった。また、学生が考案した雑穀米のおにぎりや穴水の旬の食材を使ったみそ汁を提供した。</p>	

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「能登町の未来をデザイン ～ 中学校の授業で実施～」	
実施主体	能登町	
活動形態	活動場所	能登町、金沢市
	活動人数	金沢大学 1 名、北陸大学 3 名 計 4 名
	期間	令和元年 7 月～令和 2 年 1 月（延べ 10 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>人口減少が進む能登町で、若者の UI ターンの促進が課題となっている。町は 2030 年に若者が集まる能登町になることを目標に掲げる。そこで、能登町創生総合戦略の一環として、中学生が能登を知り、考えることで将来の能登の可能性を見つけるためのキャリア教育の企画・運営に取り組んだ。</p> <p><活動概要></p> <p>7～8 月に能登中学校の校長や担任との打ち合わせを行い、中学生との授業に向けた準備を行った。打合せでは、どうすれば中学生が自主的に考えられるか、ワクワクする活動になるか、メンバーで話し合いながら方針を決めた。</p> <p>その中では、「実現性がある方がよい」、「あくまでも中学生の意見を尊重すべきだ」と、それぞれが考える“良い活動”の考えが異なりぶつかることもあったが、対話を続けることで互いの視点を活かした一つの活動を作っていくことができた。</p> <p>9～1 月にかけて計 6 回、能登中学校でのキャリア教育の授業に加わり、未来の仕事を考えることを通じて、中学生が能登の可能性を見つけ、将来能登に住む選択肢をもってもらうことを目標に、生徒の活動のサポートを行った。</p> <p><活動成果></p> <p>9～11 月にかけて計 3 回中学校でのキャリア教育の授業に加わり、学生が能登にいけないときはオンラインも活用しながら、中学生と共に「未来の仕事」のアイデアを考えた。12 月には計 2 回、考えたアイデアをもとに中学生が発表資料を作成するサポートを行った。</p> <p>その後、学生がサポートした能登中学校の 2 年生が「能登の未来をデザインする」をテーマに、12 月の学内発表を経て、1 月には能登町役場において成果報告会を開催し、能登の廃校を生かしたホテル展開など、能登の地域資源や最新の IT を活用した新しい仕事のアイデアを発表した。</p> <p>活動を通して、授業のはじめのころは「能登はなんもないしなあ」と言っていた中学生たちが、小さくとも確実に、未来の能登に対する希望を抱くようになっていったことが感じられた。</p>	

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「里山里海の資源を活かした SDGs の推進」	
実施主体	能登 SDGs ラボ	
活動形態	活動場所	珠洲市、金沢市
	活動人数	金沢大学 1 名、金沢星稜大学 1 名、北陸先端科学技術大学院大学 1 名 計 3 名
	期間	令和元年 8 月～令和 2 年 1 月（延べ 7 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>「SDGs 未来都市」に選定された珠洲市の取り組みの一環として、珠洲市栗津地区のお米の PR に取り組んだ。</p> <p><活動概要></p> <p>8 月～9 月にかけて、SDGs 等についての事前学習を行ったほか、栗津地区の住民の方にヒアリングを行った。併せて、環境整備の作業体験を行いながら、コメ作りの特徴を学習した。</p> <p>学生たちは体験で学んだことを活用しながら、SDGs と栗津地区のコメ作りを PR するパネルを作成した。</p> <p><活動成果></p> <p>1 月に開催された珠洲サーフィン大会において、ブースを出展し、栗津地区のお米の PR を行った。</p>	

事業名	令和元年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「失敗事例から学ぶ能登の商店再生プロジェクト」	
実施主体	能登町定住促進協議会	
活動形態	活動場所	能登町、金沢市
	活動人数	金沢大学 2 名、金沢星稜大学 1 名 計 3 名
	期間	令和元年 8 月～12 月（延べ 13 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>宇出津地区の商店主に聞き取り調査し、地域にふさわしい空き店舗の利活用策をはじめ、移住者など第三者に後継者となってもらう「継業」について検討した。</p> <p><活動概要></p> <p>能登町にある商店街や小規模事業者への聞き取りを通じて、現状を把握し、その再生プロジェクトの企画・提案に取り組んだ。</p> <p>8 月にヒアリング方法等の事前講習を受け、興能信用金庫や能登町商工会などの広域機関にヒアリング調査を行った。</p> <p>9 月には宇出津商店街の 20 軒に対して、「現在の営業者ご自身が引退した場合、店舗をどうするか」、「空き店舗に入ってほしいお店」などについて、ヒアリング調査を行った。</p> <p>10 月にはヒアリング調査のとりまとめを行い、他地域の類似例等を調べながら、空き店舗の利活用等についての企画を行った。</p> <p><活動成果></p> <p>12 月には、学生が能登町役場において報告会を行った。宇出津商店街には空き店舗が現在 20 店舗余りあることを報告し、一方で地元不動産会社もこうした現状を全て把握できず、空き店舗を利用したい人に情報が十分に伝わっていないことを指摘した。</p> <p>解決策として借りたい人と貸したい人を結び付けるコーディネーターの配置や情報発信の仕組みづくりを提案した。</p>	